

在宅医療・介護連携支援センターがつけられた背景

長寿社会化による状況の変化

受療率や認知症発生率の上昇に伴い、医療と介護の両方を必要とする方が増加

医療と介護の間における課題

それぞれを支える保険制度が異なる事等が影響し、多職種間の相互理解や情報共有が不十分

那覇市在宅医療・介護連携支援センターは、医療・介護の各関係機関に対する情報共有の支援や研修、地域資源に関する情報提供など、地域における医療・介護の関係機関が連携し、包括的かつ継続的なサービスを提供できるよう推進します。

在宅医療・介護連携支援センターとは

地域の医療・介護を担う多職種の連携を推進する等、地域の皆様が、医療や介護を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、在宅医療や介護サービスなど、関係機関の切れ目のない連携を実現するため、在宅医療・介護連携支援センターが設置されました。

4つの場面ごとの目指すべき姿

入退院支援	入退院において、入院医療機関と在宅医療・介護に係る機関との連携が円滑かつ適切で、質の高い情報を共有できる。
日常の療養支援	住み慣れた場所で、医療・介護が必要になった誰もが安心して適切なサポートを受けることができる。
急変時の対応	急変時において、本人の意思が尊重され、関係機関間において速やかに情報共有ができる。
看取り	住民が、人生の最終段階におけるケアの在り方や在宅の看取りへの認識と理解を深め、本人の意思が尊重され、望む場所で看取りが実施できる。

◆ 那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇

〒900-0034 那覇市東町26番1号(那覇市医師会2階)
TEL: 098-860-5666 (直通) FAX: 098-860-5667
月曜～金曜(土・日・祝祭日を除く)、午前8時30分～午後5時30分



ちゅいしーじー那覇 検索

「ちゅいしーじー」とは

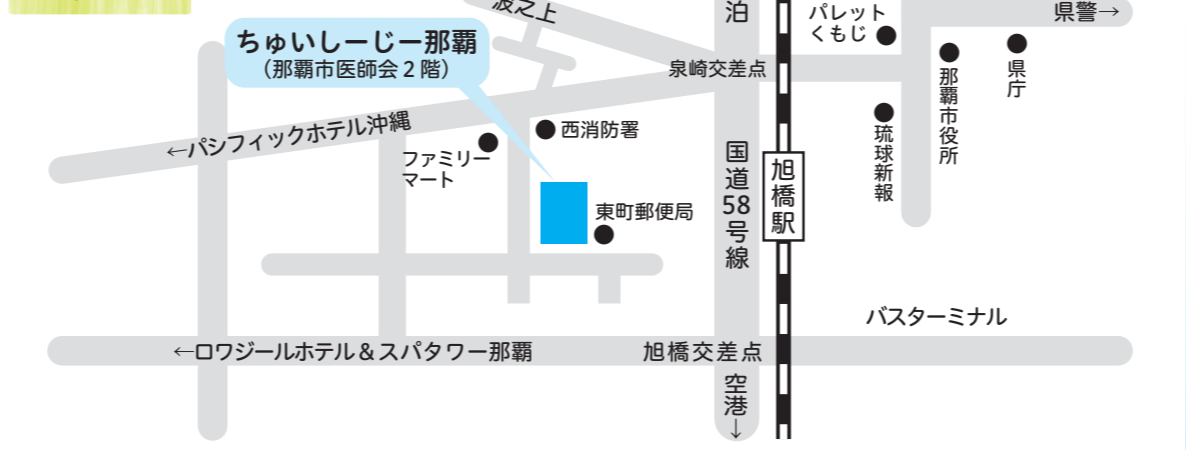
沖縄の方言で、互いに助け合うさまを指します。医療や介護が必要となっても地域のなかで安心して過ごすことができるための地域全体のふれあいを意味しています。

ロゴマーク



様々な形が、交差する様から「みんなが支え合っている」ということを意味します。左側が医療、右側が介護。双方から中にあるひとや地域を支えているイメージです。また、色は左が市木のフクギの緑、右が市花のプーゲンビリアの赤、上が空の青、下が海の青をイメージしています。

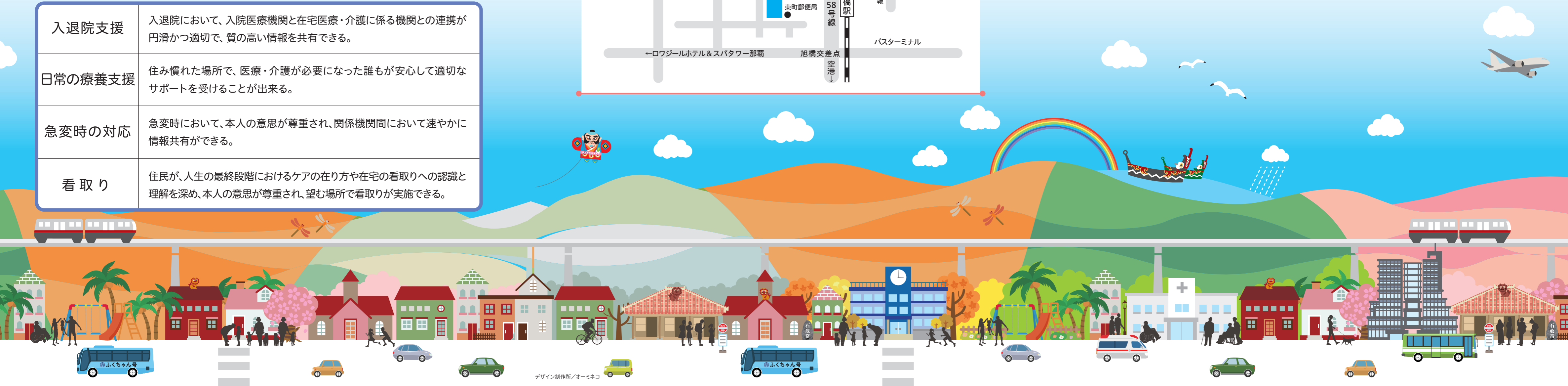
ご案内図



◆ 那覇市在宅医療・介護連携支援センター

ちゅいしーじー那覇

ちゅいしーじーで安心な
医療と介護をつなぐまち



在宅医療・介護の課題抽出と対応策の検討

在宅医療・介護の連携に関する課題について、医療・介護現場の皆様の声をお聞きし、共通の課題を抽出し、対応策の検討を行います。解決に向けた取り組みは、那覇市在宅医療・介護連携支援ネットワーク協議会（医療・介護関連の職能団体の代表者）、各種作業部会等で議論を経て実践します。

【主な取り組み】

1. 入退院支援の推進および緊急時の連携に関すること
2. 介護関連施設と医療との連携に関すること
3. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発に関すること
4. 認知症施策との連携に関すること
5. 身寄りがない方への意思決定支援に関すること

令和6年1月末現在

1. 入退院支援の推進および緊急時の連携に関すること

地域住民がどこに入院しても質の良い入退院支援を受けられることを目標に、入退院支援に関わる各種専門職との意見交換会を開催し、『ていーあんだールール～入退院支援連携コンセンサスブック～』の見直し・更新を行います①。また、緊急時に速やかな情報共有ができるよう『緊急連携シート』を普及しています②。

2. 介護関連施設と医療との連携に関すること

地域住民が有料老人ホーム等での暮らしを希望した場合も、安心・安全に暮らせるよう『ちむぐくルール～医師と行政をうま～く使いましょ♪～』の普及啓発を行っています。また、ACPの実践や終末期ケアの対応力向上を目指し出前講座を開催しています③。

3. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発に関すること

地域住民が自らの医療やケアを選択できる文化を目指し、『在宅医療・介護サービス～住み慣れた地域での生活をサポートする～』を通して公民館等での出前講座、ラジオ等を通して人生会議の大切さについて発信しています④。

4. 認知症施策との連携に関すること

認知症になっても安心して住み慣れた地域で過ごせることを目指し、認知症関連機関と定期的な意見交換会を開催し、支援体制のネットワーク作りを行っています。

5. 身寄りがない方への意思決定支援に関すること

独居や身寄りがなくとも人生の最終段階において地域で安心して過ごせることを目指し、医療・介護関係者を対象に研修会等を開催しています。

ちゅいしーじー那覇の事業報告はこちらからご覧いただけます♪

医療・介護おたすけマップ

沖縄県の各地区医師会（北部地区医師会、中部地区医師会、那覇市医師会、南部地区医師会）が共同で運営しています。

地域住民の皆様や医療・介護関係者が、医療機関や各種介護事業所等の情報を知り、活用できることを目的に作成しました。

お調べしたい【施設】、【地域】を選択して検索ボタンを押すだけ！

キーワード検索もできますので、是非ご利用下さい。

医療・介護おたすけマップ 検索



在宅医療・介護『スクラム塾』

那覇市の在宅医療推進のため、多職種連携研修会『在宅医療・介護スクラム塾』を年6回開催しています。

1. 那覇市における在宅医療を推進し、切れ目ない提供体制を構築するため、在宅医療に必要な基本知識を体系的に学ぶことができます。
2. 各職能団体と連携することにより、多職種チームビルディングの促進を図ります。
3. 在宅医療同行訪問研修を組み合わせることにより、在宅医療の実践について学び、連携を強化します。

在宅医療・介護『スクラム塾』の開催情報、開催報告についてはQRコードのちゅいしーじー那覇ホームページよりご確認ください。

『命しるべ』などを通した出前講座

在宅医療やアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）について、地域住民の皆様の理解が深まるよう、『命しるべ～いのちの道標～』や『在宅医療・介護サービス～住み慣れた地域での生活をサポートする～』のパンフレットを通して、那覇市地域包括支援センターや公民館等での出前講座を行っています。

市民フォーラムや講演会について

「最期まで地域で自分らしく、よりよく生きるために」をテーマとした市民フォーラムを開催しています。在宅医療・介護の普及啓発、人生の最終段階の医療や療養場所の選択、アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）の考え方など、元気な今だからこそ知っておきたい、話し合っておきたいことがあります。

コロナ禍においてはより命や将来と向き合い、目の前の暮らしについても掘り下げる時間を持つようになりまし。これからもラジオなど様々な方法で、自分らしく歩むための「人生会議」をPRしていきます。

市民フォーラムでの医療・介護従事者による創作劇

については、YouTubeのちゅいしーじー那覇チャンネル

からご覧いただけます。

在宅医療・介護連携に関する相談支援

ちゅいしーじー那覇では、地域の医療・介護関係者、那覇市地域包括支援センター等から在宅医療・介護の連携に関する相談をお受けしています。お気軽にお問い合わせ下さい（TEL：098-860-5666）。

通院から在宅医療に切り替えるにはどうしたらいいの？

高齢者施設での看取りに漠然とした不安がある。

認知症サポート医とどう連携したらいいの？

精神疾患に対応している訪問看護ステーションを教えてください。

治療が終了しても、退院後の受け入れ先が見つからない・・・

緊急時、医療や介護の情報がうまく速やかに伝わらない・・・

